



成城大学
国際編集文献学研究センター
Research Center for Textual Scholarship
Seijo University

編集文献学 × 英文学研究

ハンス・ヴァルター・ガブラー氏講演

愛の復活、そのゆくえ

—— 今、ガブラー版『ユリシーズ』の意義を語る



自分が何を語っているか、わかってんのか？
そう、愛だ。万人に知られた言葉……。
——『ユリシーズ』第9挿話

2023年10月15日 (日)

13:00 ~ 16:15

会場：成城大学 8号館 008教室

定員：100名 (事前申し込みが必要です)

プログラム

第一部 ガブラー版『ユリシーズ』入門ワークショップ

横内 一雄 (関西学院大学教授)

南谷 奉良 (京都大学准教授)

司会：明星 聖子 (成城大学教授・国際編集文献学研究センターセンター長)

第二部 講演「『ユリシーズ』愛の復活」

ハンス・ヴァルター・ガブラー (ミュンヘン大学名誉教授)

通訳：小野瀬 宗一郎 (日本女子大学講師)

■問い合わせ：

成城大学国際編集文献学研究センター事務局

E-Mail: ts-office@seijo.ac.jp

■主催：成城大学国際編集文献学研究センター

◆令和5年度 科学研究費補助金 基盤研究 (A)

「第三世代としての編集—古典の再生と文学研究の活性化をめざす編集文献学的研究」 (研究代表者：明星聖子) による事業

■参加申し込み：

10月8日(日)までに下記URLまたは右QRコードから
Googleフォームにてお申し込みください。

<https://forms.gle/yvY11fTHM5aHRNb39>

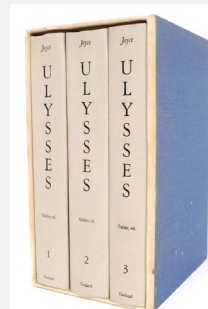
■参加費：無料



科研費
KAKENHI

■ イベント趣旨

1922年の刊行から101年目を迎えたジェイムズ・ジョイスの『ユリシーズ』。現在底本として広く使用されているガブラー版『ユリシーズ』（1984）は、最初の学術批判版であったが、刊行当初から激しい論争を巻き起こした。たった3行のテキスト編集が作品解釈を大きく左右し、反撥した学者らは大手メディアを巻き込んで「ジョイス戦争」とも言われる場外乱闘まで展開した。ガブラー氏は英文学テキストにドイツ流の厳密な編集文献学の方法を持ち込んだ先駆者。デジタル時代の新しいテキスト編集の行く末も見すえ、ガブラー版『ユリシーズ』に盛り込んだ知見を語る。テキストの細部に耽溺する文学研究の面白さに触れたい多数の文学愛好者の参加を望む。



▶ ガブラー版『ユリシーズ』全3巻
Hans Walter Gabler (Ed.):
Ulysses. A Critical and Synoptic Edition. (Garland, 1984)

■ 登壇者紹介



ハンス・ヴァルター・ガブラー Hans Walter Gabler

ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクスимиリアン大学名誉教授。ロンドン大学高等研究院英文学研究所主任研究員。『ユリシーズ』のほか、『若き芸術家の肖像』(*A Portrait of the Artist as a Young Man*)や『ダブリン人』(*Dubliners*)の編集も手掛ける(ともに1993年刊)。その他業績として、*English Renaissance Studies in German, 1945-1967* (1971)や*Text Genetics in Literary Modernism and other Essays* (2018)などがある。



横内 一雄
Kazuo Yokouchi



南谷 奉良
Yoshimi Minamitani



小野瀬 宗一郎
Soichiro Onose



明星 聖子
Kiyoko Myojo

■ 会場案内

小田急線「成城学園前」駅中央改札より徒歩4分。

8号館へは立て看板に沿って正門よりまっすぐ進み、2号館手前で右手にお曲がりください。会場008教室は、8号館入って4階にございます。

◆ ジョイスの肖像および手稿画像はWikipedia Commonsより使用
ダブリンの地図 (1916年) 画像はThe New York Public Libraryより使用：
<https://digitalcollections.nypl.org/items/a775b160-2184-0132-0102-58d385a7bbd0>

